

北海道大学水産学部附属練習船おしよろ丸 公開実習（北極航海乗船実習および事前乗船実習） 実施要項

1. 実習目的・内容

文部科学省環境技術等研究開発推進事業費補助金事業「北極域研究強化プロジェクト（ArCS III）」における人材養成・人材育成活動の一環として、北海道大学水産学部附属練習船おしよろ丸に乗船し、海洋物理・化学観測、プランクトン・魚類等の採取、鳥・哺乳類などの目視調査等を行い、北極海の海洋環境や生態系を理解するとともに、北極圏の歴史や文化を学びます。

北極域の自然科学・人文科学の研究者を目指す学部学生だけでなく、企業・行政・教育・NPOなどの様々な社会活動を通じて、直接的・間接的に北極域の諸問題の解決や北極域に関する知識の普及に今後積極的に関わりたいと考えている学部学生の応募を歓迎します。

2. 授業科目名・単位数

所定の要件を満たすことにより、以下の北海道大学水産学部の単位（計5単位）が認定されます。

特別実習I（北海道・東北沖洋上実習）：1単位

特別実習II（北極航海乗船実習前半）：2単位

特別実習II（北極航海乗船実習後半）：2単位

※上記3科目の一部のみを受講することはできません。

※北海道大学で取得した単位が、受講者所属大学の単位として認定されるか否かは、受講者所属大学の判断になります。各自事前に確認をお願いします。

3. 担当教員

北海道大学大学院水産科学研究院 野村大樹 松野孝平 上野洋路
北海道大学大学北極域研究センター 大西富士夫

4. 実習日程・実施場所

本公開実習は、事前乗船実習と北極航海乗船実習より構成されます。

事前乗船実習（北海道・東北沖洋上実習）

北極航海乗船実習の前に、船上生活、海洋観測の基礎および安全確保を学ぶため、事前乗船実習としておしよろ丸の航海に参加します。

日時（2026年）	内容
2月25日	午前：北海道大学函館キャンパス（函館市港町3-1-1）集合 午後：おしよろ丸乗船・函館出港
2月25日-3月4日	北海道・東北沖洋上実習
3月4日	函館帰港・下船・解散

※事前乗船実習への参加は、北極航海乗船実習参加の必須要件となります。

北極航海乗船実習

公開実習参加学生が日本からノームまで移動する際には、担当教員および社会人参加者が同行します。

日時（2026年）	内容
7月8日	羽田/成田空港集合、空路で米国へ
7月9-12日	ノーム着、コミュニティー集会、オリエンテーション等、おしよろ丸乗船
7月13日-8月3日	おしよろ丸ノーム出港、北極海での洋上実習
8月3日	おしよろ丸函館帰港、解散

※事前乗船実習・北極航海乗船実習ともに、日程等が変更になる可能性があります
（16. 新しい感染症、ロシア情勢等への対応参照）。

公開実習報告会

実習終了後、秋冬ごろに報告会の実施を予定しています。

5. 対象学生と定員

本実習への申込時および参加時において、国立・公立・私立大学に在籍する学部学生となります。北極域の自然科学・人文科学の研究者を目指す学生だけでなく、企業・行政・教育・NPOなどの様々な社会活動を通じて、直接的・間接的に北極域の諸問題の解決や北極域に関する知識の普及に今後積極的に関わりたいと考えている学生の応募を歓迎します。乗船中は相部屋での共同生活となり、集団行動が求められます。定員は8名程度とします。

6. 提出書類

- (1) 参加申込書（様式指定）
- (2) 学生証のコピー
- (3) 特別聴講学生願書（特別聴講学生とならない場合は受講願）（様式指定）
- (4) 誓約書（2種類）（様式指定）
- (5) 自己申告書（様式指定）

- (6) 学部長または学科長の推薦書（様式任意）
- (7) 学生教育研究災害傷害保険（学研災）および学研災付帯賠償責任保険（付帯賠償）への加入を証明するもの（領収書のコピー・証明書等）

7. 個人情報の取り扱い等

応募書類に含まれる個人情報については、厳重に管理し、法令等により提出を求められた場合を除き、下記の目的以外で利用することはありません。

- (1) 応募書類に基づく選考委員会による審査および採否通知
- (2) 航空券・宿泊先・乗船等の手配のため、旅行代理店への提供
- (3) 乗船中の安全管理のため担当・引率教職員への提供
- (4) 本学、北極域研究強化プロジェクト、報道関係者による情報発信のための広報媒体への提供。なお、広報利用する際は所属・職名・氏名を使用

8. 申込期限

2025年11月14日必着

9. 申込先

北海道大学函館キャンパス事務部教務担当
〒041-8611 函館市港町3-1-1
電話：0138-40-5510

※必ず所属大学の教務関係担当事務を通して申し込んでください。また、郵送の際、封筒表に「公開実習（北極航海乗船実習および事前乗船実習）参加申込書在中」と朱書きをお願いします。

10. 参加費用

参加者負担

- ・ 事前乗船実習参加に必要な交通費（函館までの往復）および宿泊費（前泊等する場合）
- ・ 事前乗船実習におけるおしよる丸乗船中の食費・シーツ代等：7,000円程度
- ・ 米国B1/B2ビザ取得費用：185ドル（2025年7月現在）＋大使館・領事館との往復旅費
- ・ 海外旅行保険料（北極航海乗船実習向け）：2-3万円程度

主催者負担

- ・ 北極航海乗船実習に必要な交通費（自宅→ノーム、函館→自宅）、宿泊費等
- ・ 北極航海乗船実習におけるおしよる丸乗船中の食費・シーツ代等

11. 授業料について

「2. 授業科目名・単位数」に記した単位を取得するためには、以下のとおり授業料がかかる場合があります。なお、北海道大学で取得した単位や受講証明書が受講者所属大学の単位として認定されるか否かは、受講者所属大学の判断となりますので、所属大学の教務関係事務担当に事前に照会して下さい。

国立大学の学生

特別聴講学生願書の提出により、授業料は不徴収とします。

公立・私立大学の学生で特別聴講学生となる場合（単位取得を希望する場合）

授業料（74,000円：14,800円×5単位）を納付し、北海道大学の特別聴講学生となることで、所定の要件を満たすことにより北海道大学水産学部の単位（計5単位）を取得することができます。なお、公立・私立大学の学生については、学部間による履修に関する協定を締結している場合は、授業料は不徴収となります。

公立・私立大学の学生で特別聴講学生とならない場合（単位取得を希望しない場合）

授業料の納付は不要です。この場合、単位の認定はできませんが、受講証明書を発行します。

12. 選考方法・受講可否の連絡

基本的には書類選考により採否を決定する予定ですが、場合によってはオンラインなどでの面接を実施する可能性があります。また、選考にあたっては参加学生の多様性を考慮します。受講可否については2025年12月26日までを目安に、電話やメールなどで個別にお知らせします。

13. 問い合わせ窓口

申込手続きについては、北海道大学函館キャンパス事務部教務担当に電話またはメールでお問い合わせください。

電話：0138-40-5510

E-Mail：kyoumu@fish.hokudai.ac.jp

実習内容については、北海道大学水産学部おしよろ丸公開実習担当（E-mail：oshoro2026arcs3@ml.hokudai.ac.jp）にメールでお問い合わせください。

14. 参加の辞退

受講許可通知後の辞退は原則としてできません。他の重要な日程（定期試験・大学院入試・就職活動等）を事前に確認・調整の上、申し込むようにしてください。ま

た、参加申し込み後に、病気や怪我等で参加できない状況となった場合には、早急に連絡してください。

15. 乗船中の連絡・緊急時対応

実習中は緊急連絡の窓口を北大函館キャンパス事務部船舶担当に設置します。おしよろ丸には衛星電話が搭載されており、緊急連絡が必要な際には、北極海においても発信・受信が可能です。また、非常時には、「水産学部練習船における非常時・緊急時の連絡体制」に従い、代理店、在アンカレジ領事事務所等と協議の上、緊急入港等を行います。おしよろ丸は、「2006年の海上の労働に関する条約」に基づき、「無線医療助言事業」により、無線による医療助言を365日24時間体制で無料にて受けることが可能です。航海中の船舶内において急病人やけが人が発生した際には船員法で規定する本船の衛生管理者から電話、FAX、メール等により委託病院へ助言を要請し、速やかに医師による救急処置の指示等の医療助言を受けることが可能です（※船舶に備え付ける医薬品は船員法施行規則第53条1項によって定められています）。

16. 新しい感染症、ロシア情勢等への対応

事前乗船実習（北海道・東北沖洋上実習）

- ・ 指定の「体温記録表」により、乗船前1週間は体温・体調の記録をお願いします。指定の「体温記録表」の提出が無い場合、乗船は出来ません。
- ・ 乗船前1週間以内に風邪症状があった場合、新型コロナウイルスのPCR検査を受検願います。なお、乗船までに陰性が証明出来ない場合、乗船は出来ません。
- ・ 乗船前3日間に37.5度以上の発熱があった場合、乗船は出来ません。
- ・ 上記により乗船が出来なかった場合、利用者負担金（食事代等）は免除いたします。
- ・ 乗船中、船内のマスク着用は個人の判断となりますが、船内で有症者が発生した場合など必要に応じマスクの着用をいただく場合もありますので各自マスクを持参願います。
- ・ 医療機関への緊急搬送が必要な場合などにおいて、航海を中止し、帰港する場合があります。
- ・ 下船後、多数の感染者が発生した場合などの緊急時には、記載いただいた連絡先に大学から連絡いたしますので、予めご了承願います。
- ・ 上記対策は、市中の新型コロナウイルス感染症やインフルエンザウイルスの感染状況により、北海道大学水産学部練習船運営委員会または委員長が適宜規制の強化や緩和を行う可能性があります。
- ・ 新型コロナウイルスのような新たな感染症が蔓延し、日本政府、米国政府、北海道大学等による対応措置が講じられた場合、その措置に従っていただきます。

北極航海乗船実習

- ・ 乗船に際しては、事前乗船実習と同様対策および対応とします。
- ・ おしよろ丸は、北方領土・ロシア排他的経済水域から十分離れて航行・観測を実施する予定です（下図参照）。外務省の危険情報に基づき、危険と判断された場合（米国アラスカ州の危険レベルが2以上の場合）には北極航海を取りやめ、北太平洋における乗船実習や陸上でのイベント等に振り替えます。

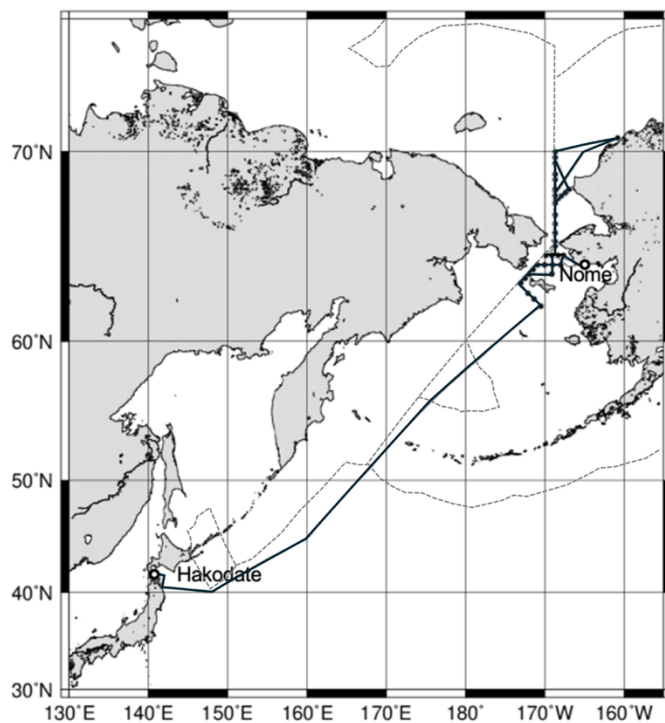


図. 2026年おしよろ丸北極航海予定観測点（黒丸）、航路（黒線）、点線は米国・ロシア・北方領土の排他的経済水域（EEZ）境界を示します。

17. 北極域研究強化プロジェクト（ArCS III）情報

本公開実習は、文部科学省環境技術等研究開発推進事業費補助金事業「北極域研究強化プロジェクト（ArCS III: Arctic Challenge for Sustainability 3）」における人材養成・人材育成活動の一環として実施されます。北極域は、地球温暖化の影響が最も顕著に現れている地域であり、北極域の自然環境の急激な変化は、中緯度を含む地球全体の環境や生態系に大きな影響を与えています。北極域の持続可能性に関する社会的課題の解決に貢献する分野横断型研究の発展や、北極域環境の実態把握（観測空白域の解消）とそれに基づく予測信頼性の向上は喫緊の課題です。国立極地研究所、海洋研究開発機構および北海道大学の3機関が中心となり、2025年4月1日から2029年度末までの期間で実施しています。

北極域研究強化プロジェクト（ArCS III）と参加申し込みに関するホームページ：

<https://www.arcs3.nipr.ac.jp>

<https://www.arcs3.nipr.ac.jp/news/1530/>